

はじめに

えいろく
永禄12(1569)年、世は戦国時代でした。
当時の代表的な戦国大名、さがみのくにほうじょう相模国北条氏と甲か
いのくにたけだ斐国武田氏の軍勢が、この地で戦いました。
一般に「みませかつせん三増合戦」といわれる戦いです。わ
が国の歴史上に、愛川町の地名が、大々的に
登場した一大事件だったといえるでしょう。

激しい戦いを物語るかのように、この一帯
からは、刀や槍、鉄砲の弾等が出土していま
す。また、「くびづか首塚」、「どうづか胴塚」、「たけだしんげんはたたてまつ武田信玄旗立松」、
「あさりみょうじん浅利明神」等の史跡が残っています。

現在、愛川中学校となっている「たしろ田代城」
も、戦いに巻き込まれ、落城したと伝わって
います。

昭和44年、合戦の日から四百年を経て、激
戦の地に記念碑を立て、この冊子の初版が編
まれました。以後、刷を重ねてきましたが、
時代が変化する中、内容を再検討し、改訂版
を発行いたしました。

編集に際しては、愛川町文化財保護委員を
はじめとする関係者一同のお力添えを賜りま
した。厚く御礼申し上げます。

この冊子が、今後とも、三増合戦の史跡探
訪のよき道標となることを願っております。

平成28年3月

愛川町教育委員会



三増合戦場跡遠望（経ヶ岳中腹の林道より撮影。手前は田代地区の住宅街）

• 表紙の文は武田信玄旗立松蹟址碑の碑文の一部です。